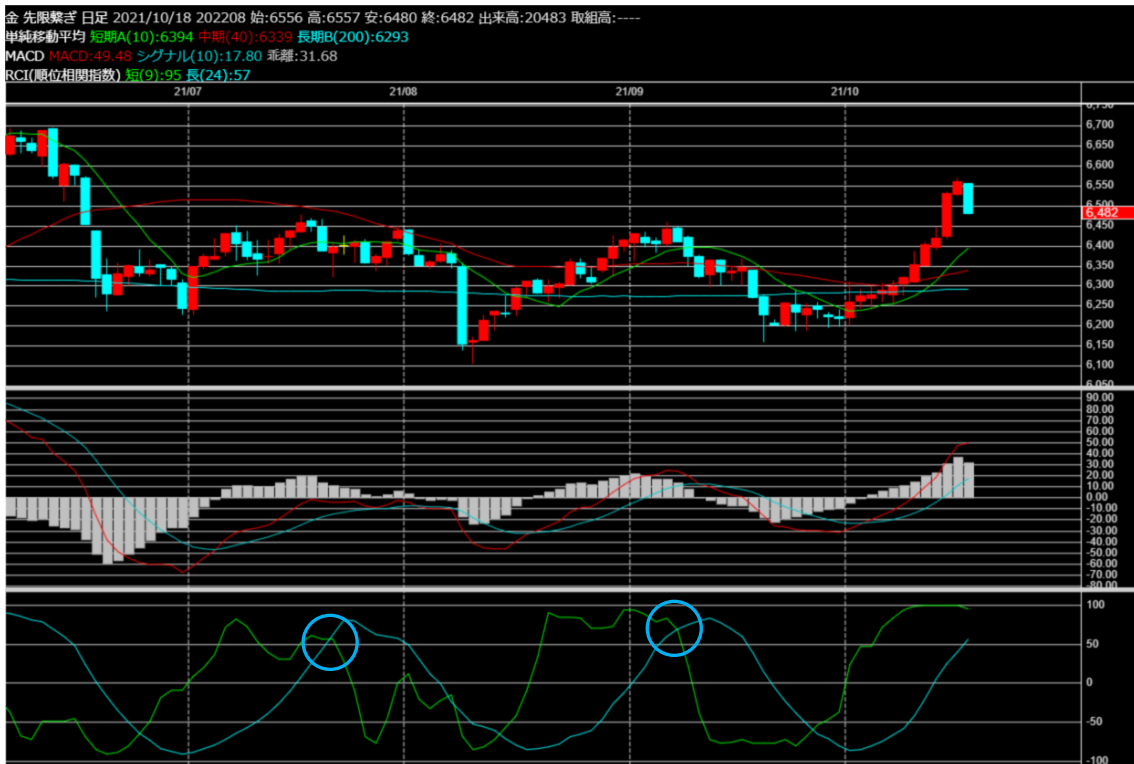


<金標準先物、目先ピークアウトから 6350 円まで下値追い・・・>



(出所：オアシス)

生産者物価指数（PPI）の落ち着きや新規失業保険申請件数の低下、また JP モルガンやモルガン・スタンレー、シティグループなどの金融機関の好決算を受けて市場に蔓延していたスタグフレーションの後退で長期金利が低下するなど、金標準先物は 6 月以来の 6570 円まで高値を試している。しかし週末に予想外の小売売上高の上昇や恒大集団の問題に中国人民銀行が沈黙を破り「金融システムに及ぼす波及効果は制御可能」と発言するなど、デフォルト・リスクの鎮静化を計っている。

特に米国長期金利は 10 年債が 1.574%まで上昇し、2 年債も 0.394%と上昇を見せるなど金利の上昇が加速しており、円安効果が削がれている状況である。また来週は中国の経済指標、ミネアポリス、カンザスシティ、シカゴ、アトランタ連銀総裁の講演が並び、テーパリングに対する発言が聞かれる事もあり、また中国全人代で示す議題を決める常務委員会が開催されるなど、イベントが集中するため逃避の動きも低下する確率が高く、上値が抑えられる値動きが予想される。

(2021 年 10 月 17 日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** と **シグナル** の乖離がピークアウトし、**RCI** でも **短期** が下げだし、**長期** の上昇に向けて下げている。そのためオシレーターは、過去の 7 月の高値 6479 円、9 月の高値 6460 円と同様に金標準先物が目先ピークアウトした可能性が高く、**10 日移動平均線** が示す 6394 円に向けて下値模索の値動きに注意したい。